

□主な内容

【第 15 回 EST 交通環境大賞の募集を開始しました！】

地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の募集を受付中です。〔応募締切: 2025 年 1 月 17 日〕

<https://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2023.html>

【第 49 回 EST 創発セミナー in 陸前高田を開催します！】

11 月 29 日(金)に、EST 交通環境大賞で大賞(環境大臣賞)を受賞した岩手県陸前高田市で「新モビリティが導く誰もが気兼ねなくお出かけできる脱炭素社会」と題して、第 49 回 EST 創発セミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちしています！

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu79.html>

【EST メールマガジンの読者アンケートを実施しています】

EST メールマガジンの改善に役立てるため、読者アンケートを実施しています。アンケートへのご協力をお願いいたします。

<https://forms.gle/56h1W7kyPg1e3dBY7>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 218 回)

【群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター センター長 天谷賢児】

2. ニュース／トピックス

- 令和6年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」二次募集の交付決定【国土交通省】
- 「ダブル連結トラック」の対象路線を拡充 ～新たな対象路線を含めた区間で特殊車両通行許可申請の受付開始！～【国土交通省】
- 令和6年度運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業の一次公募結果(分野2)について【環境省】
- 第 15 回 EST 交通環境大賞の募集を開始しました！【エコモ財団、EST 普及推進委員会】
- 第 49 回 EST 創発セミナーin 陸前高田〔東北〕【陸前高田市、国土交通省東北運輸局、EST 普及推進委員会、エコモ財団】
- 村上市地域公共交通利便増進実施計画の認定について【北陸信越運輸局、村上市】

- 「益田市(旧匹見町)」と「佐伯交通圏」の営業区域において日本版ライドシェアを許可しました【中国運輸局】
- 四国初！日本版ライドシェアを許可しました【四国運輸局】
- 「スマート通勤おかやま」2024 参加者募集！【岡山県】
- JR 花輪線サイクルトレイン実証実験を行います【花輪線利用促進協議会、JR 東日本】
- 令和 6 年度こども MaaS サービス実証実験【つくば市、東海クラリオン、JAXA】
- 佐賀駅バスセンターから SAGA サンライズパークバス停間で自動運転バスの運行実証を実施します！ ～自動運転バスを体験し、未来の快適な移動手段についてみんなで考えましょう！～【佐賀県、佐賀市、建設技術研究所、先進モビリティ】
- 生駒市初！グリーンスローモビリティ「はぎくる」が実証運行開始【生駒市】
- 2024 年度多気町 × 明和町デマンドタクシー交通広域連携プロジェクトが始まります！【多気町、明和町】
- 奥畑線乗合タクシーのデマンド交通の実証実験を開始しました【周防大島町】
- 都市部におけるオンデマンドモビリティ「みなりの」の実証運行を開始 ～東京都港区高輪地区における交通不便地域の解消と域内移動サービスの拡充～【JR 東日本、KDDI、国際ハイヤー】
- 2025 年大阪・関西万博で運行する会場内・外周バスの運行ルートと乗車料金が決まりました ～EV バスを用いてレベル 4 相当の自動運転走行や走行中給電を実施します～【Osaka Metro、関西電力、ダイヘン、大林組】
- 乗合タクシー『のるーと上熊本』実走運行開始【TaKuRoo】
- 「EV トラクトック」が納車されました【神戸親和大学】
- EV サービスの展開を開始します【SmartRyde】
- 商用車ユーザーの脱炭素化を支援する「EV ライフサイクルサービス」を 10 月 1 日から開始しました【ヤマトオートワークス、芙蓉総合リース】
- InnoTrans2024 で環境に優しいインテリジェント旅客輸送ソリューションを発表【CRRC】

3. イベント情報

- 本物の列車や運転シミュレーターで列車運転を体験しよう！【2024/10/26】
- 駅祭テイング 2024 in 天王寺公園【2024/10/27】
- 第 28 回地域バス交通活性化セミナー 「コロナ後の大都市域における路線バス網リデザインの必要性和方策」【2024/10/28】
- 第 11 回させば公共交通ふれあいフェスタ【2024/11/2】
- マチミチ study 現地勉強会 in 春日部【2024/11/11】
- 兵庫カーライフフェスタ 2024【2024/11/16-17】
- 本物の列車や運転シミュレーターで列車運転を体験しよう！【2024/11/16】
- 地域公共交通シンポジウム in 中部「～地域公共交通の未来をどう創るか～ 課題解決のためのデジタル技術の活用」【2024/11/21】

- 2024 年度エコドライブシンポジウム【2024/11/22】
- グリーン経営認証取得講習会【2024/11/25-26】
- 第 49 回 EST 創発セミナーin 陸前高田〔東北〕【2024/11/29】
- 地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト【2024/11/8～2025/1/20】

4. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 218 回)

●環境的に持続可能な交通としてのグリーンスローモビリティ

【群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター センター長 天谷賢児】

公道走行が可能で、最高時速 19km 以下、4 人乗り以上の電動車は「グリーンスローモビリティ」と呼ばれ、様々な地域に導入されている。著者らのグループも 2010 年に JST 社会技術研究開発センターからの支援による地域の低炭素化事業において、低速電動バス(eCOM-8)を開発した(図 1)。2012 年には公道走行が可能になり、地域での運行が始まった。その後 2018 年には国土交通省が上記の「グリーンスローモビリティ」を全国に普及する取り組みをはじめ、低速電動バスも全国に普及が進んだ。現在多くの地域で観光用途や街の活性化、暮らしの足として利用されている。

この低速電動バスは車内のシートが対面式になっており、乗客間の会話がしやすい空間をつくり出している⁽¹⁾。乗客が一定時間同じ空間を共有することで、様々な地域情報が共有されるとともに、お互いを見守るような機能が生まれる。その結果、運行地域のコミュニティの活性化が期待できる。

従来の公共交通は、多くの人を「早く」「遠く」まで運ぶことを前提とした目的合理的な考え方で設計されてきたが、グリーンスローモビリティは、乗ると楽しいや環境にやさしくて気持ちいいというような価値合理的な乗り物と考えられる。つまり「移動する価値」だけではなく「乗ること自体で生まれる価値」に魅力が感じられる乗り物といえる。もちろん経済的な持続性を担保するためには、そういった価値だけでは維持が難しい。これについては、地域住民が運行に関与するような仕組みの構築と、地域全体の理解や多世代での合意形成が必要となる。

環境的な持続可能性としては、従来のガソリン車に比べて直接排気ガスを出さないという点で、環境にやさしい車といえる。また、低速で走行する車であることから、消費する電力も比較的少なく抑えることができる。ガソリン車との比較では、乗車人数と移動距離当たりで比較する必要がある。環境省の資料によれば、ガソリン車の平均的な走行距離当たりの CO₂ 排出量は 150g-CO₂/(km・人)となっている⁽²⁾。上述の低速電動バス eCOM-8 の排出量を発電時における CO₂ 排出量から概算するとおよそ 65g-CO₂/km となり⁽²⁾、10 人乗りとして単純に 1/10 にすれば、6.5g-CO₂/(km・人)と計算できる。使用法や使用目的が大きく異なる通常のガソリン乗用車と低速電動バスを、このように単純比較することが適切かどうかは少々疑問であるが、グリーンスローモビリティが、他の自動車に比べて環境にもやさしいということはできるかもしれない。

また、一般的にグリーンスローモビリティは再生可能エネルギーとの相性が良いように思われる。地域内のごく限られた区間をゆっくりと走ることを前提としているために、1 運行当たりの消費電力も比較的小さく抑えることが可能である。eCOM-8 の場合はバッテリー容量が 52V100Ah となっており、これは 5.2kWh となる。太陽光パネルの発電量を少なく見積もって 1 枚当たり 150W とし、10 枚程度の小規模な発電設備を設置したとすれば、約 1.5kW の電力

を得ることができる。仮に 1 日 4 時間程度の発電ができるとすると 6.0kWh の電力量を得ることができる。リチウムイオンバッテリーへの充電による損失を 10%程度と仮定すると、利用できる電力量は 5.4kWh となる。実際には直接充電ではなく一度別の蓄電設備に貯めておくような場合はその損失もあるであろうし、天候の影響なども考えると太陽光パネルだけの発電では課題もあると思われるが、商用電力を併用するとしても環境に配慮した持続性のある地域交通システムが構築できる可能性がある。

環境的持続性や経済的持続性を確保して、地域内の移動手段を持続的に確保することは必ずしも容易ではない。しかしながら、グリーンスローモビリティは移動するという価値だけではなく、乗ることが楽しいやみんなと会話ができる、お互いの見守りが生まれるなど、他の乗り物にない新しい価値が生まれる乗り物と言える。これらのたくさんの価値を積み上げることで、持続性が生まれるのではないだろうか(図 2)。すでに導入がされている多くの先進地域の取り組み成果を共有していくことで課題が解決され、さらに普及が進むことを期待したい。



図 1 低速電動バス(eCOM-8)

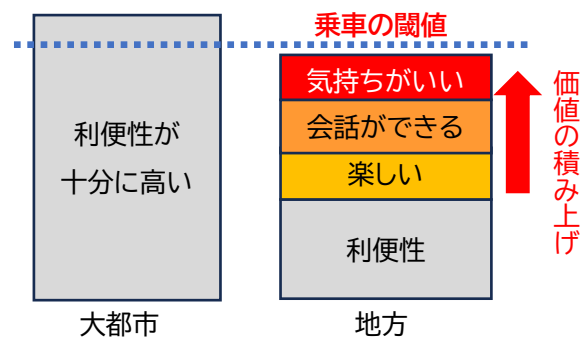


図 2 地方における持続性の確保

- (1) Kenji Amagai, et. al., Journal of Energy and Power Technology, Vol.5, Issue 1, doi:10.21926/jept.2301005, 2023.
- (2) 環境省資料, <https://www.env.go.jp/content/900445316.pdf> (2024.10.06 確認)

2. ニュース／トピックス

●令和6年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」二次募集の交付決定【国土交通省】

国土交通省は、物流総合効率化法に基づく総合効率化計画の策定やモーダルシフト等の取組みを支援する令和6年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」二次募集について、計画策定経費補助1件、運行経費補助6件の交付決定を行いました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000825.html

●「ダブル連結トラック」の対象路線を拡充 ～新たな対象路線を含めた区間で特殊車両通行許可申請の受付開始！～【国土交通省】

国土交通省は、1台で通常的大型トラック2台分の輸送が可能な「ダブル連結トラック」を2019年1月に本格導入して以降、対象路線を順次拡大してきました。

物流事業者のニーズ等を踏まえ、北海道、首都高速、阪神高速での通行区間を初めて追加するほか、災害時の迂回路となる上信越道、北陸道、中国道等でも拡充(5,140kmから6,330km)を行います。

新たな対象路線を含めた区間で特殊車両通行許可申請の受付を開始しました。今後は、高速道路 SA・PA でのダブル連結トラック優先駐車マスを整備するほか、引き続き、主な通行経路となる区間について検討を進めます。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road04_hh_000025.html

●令和6年度運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業の一次公募結果(分野2)について【環境省】

環境省では、運輸部門の脱炭素化に資する技術の社会実装を促進するための開発・実証を行い、運輸部門の脱炭素化を加速させ、脱炭素社会の早期実現に貢献することを目的として「令和6年度運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業」を実施します。

https://www.env.go.jp/press/press_03791.html

●第15回 EST 交通環境大賞の募集を開始しました！【エコモ財団、EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会とエコモ財団は、わが国における EST の更なる普及のためには、自治体が長期的視野に立って交通・環境政策を策定・実施することを促すと共に、「地域で交通環境対策を実践している団体(自治体、企業、市民団体等)の優れた取組み事例を発掘し、広く紹介する」ことが重要であると考えています。そこで、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹

介し、普及を図るために、EST 交通環境大賞を 2009 年度に創設し、2024 年度で 15 回目となります。

9 月 30 日に募集を開始しました。応募期間は、2025 年 1 月 17 日までです。

<https://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2024.html>

●第 49 回 EST 創発セミナーin 陸前高田〔東北〕【陸前高田市、国土交通省東北運輸局、EST 普及推進委員会、エコモ財団】

EST 普及推進委員会とエコモ財団は、環境的に持続可能な交通（EST）の普及推進を図ることを目的に、11 月 29 日に第 49 回 EST 創発セミナーin 陸前高田を開催します。今回のセミナーでは、環境的にも社会的にも持続可能な地域交通に関する講演、陸前高田市での取組紹介とともに、意見交換を通じて陸前高田市での住民生活におけるグリス口活用や脱炭素社会に向けた今後の展開、高齢化が進む他地域でのモビリティの可能性などについて議論します。イベント当日の午前中に現地見学会の開催を予定しています。

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu79.html>

●村上市地域公共交通利便増進実施計画の認定について【北陸信越運輸局、村上市】

北陸信越運輸局は、2024 年 9 月 30 日、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、「村上市地域公共交通利便増進実施計画」の認定を行いました。

村上市では、①重複系統の整理や利用の少ないバス系統のデマンド型乗合タクシーへの転換、②ゾーン制運賃や系統番号の導入、③デマンド型乗合タクシーの運賃体系の見直し等を通じ、利便性・持続可能性双方の向上に取り組めます。

<https://www.tb.mlit.go.jp/hokushin/content/000333536.pdf>

●「益田市（旧匹見町）」と「佐伯交通圏」の営業区域において日本版ライドシェアを許可しました【中国運輸局】

中国運輸局は、配車アプリを使わない日本版ライドシェアとして、「益田市（旧匹見町）」と「佐伯交通圏」の 2 か所の営業区域で許可を行いました。

「日本版ライドシェア（自家用車活用事業）」は、タクシー事業者の管理の下で、タクシーを補完する目的で、地域の自家用車や一般ドライバーを活用して、タクシーが不足する曜日や時間帯において、有償で運送サービスを提供するものです。

都市部における日本版ライドシェアでは、利用の申込から配車の手配、運行から運賃決済までの一連の流れを、配車アプリを介して行うものが多いですが、日本版ライドシェアは配車アプリが普及していない地域でも導入可能な仕組みになっています。

https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/00001_02060.html

●四国初！日本版ライドシェアを許可しました【四国運輸局】

四国運輸局は、松山交通圏で日本版ライドシェアの実施申し出があり、10月4日に日本版ライドシェア(道路運送法第78条第3号に基づく自家用自動車有償運送)の許可を行いました。

<https://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/newsrelease/2017/2024-1004-1100-6.html>

●「スマート通勤おかやま」2024 参加者募集！【岡山県】

岡山県、岡山市、倉敷市、岡山国道事務所によるスマート通勤おかやま実行委員会は、公共交通の利用促進や自動車から排出されるCO₂の削減、朝夕の交通渋滞の緩和などに向けて、「スマート通勤おかやま」に取り組んでいます。2024年度は10月22日と29日を統一参加日として、参加者が一斉にスマート通勤を実施する日と位置付けています。

<https://www.pref.okayama.jp/page/936922.html>

●JR 花輪線サイクルトレイン実証実験を行います【花輪線利用促進協議会、JR 東日本】

花輪線利用促進協議会は、自転車の分解等を行わずに自転車を列車内へ持ち込むことができるサイクルトレイン実証実験を実施しています。公共交通と自転車を組み合わせることにより、行動範囲を拡大することで公共交通利用促進、観光誘客、地域連携強化を目的として実施します。

https://www.jreast.co.jp/info/2024/morioka/20240903_mr01.pdf

●令和6年度こども MaaS サービス実証実験【つくば市、東海クラリオン、JAXA】

つくば市、東海クラリオン株式会社及び宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、子育て世代向けサービスとして、ペDESTリアンデッキに接する施設を低速自動走行モビリティで結び、こどもの安全な移動を支援する「こども MaaS サービス」の実証実験を実施しました。

つくばセンター地区のペDESTリアンデッキにおいて、こどもを乗せて、低速自動走行モビリティ「YADOCAR-i ドライブ」で自動走行(レベル2)の実証実験を行い、同時に、JAXA が研究開発に取り組むセンチメートル級測位補強信号を活用した高精度単独測位「MADOCAR-PPP」を YADOCAR-i ドライブに適用することで、測位の精度向上と高速化を実証しました。

<https://www.city.tsukuba.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakuinnovationbusmartcitysenryakuka/gyomuannai/1/21819.html>

●佐賀駅バスセンターから SAGA サンライズパークバス停間で自動運転バスの運行実証を実施します！～自動運転バスを体験し、未来の快適な移動手段についてみんなで考えましょう！～【佐賀県、佐賀市、建設技術研究所、先進モビリティ】

株式会社建設技術研究所と先進モビリティ株式会社は、佐賀駅バスセンター(6番乗り場)から SAGA サンライズパーク(市文化会館前)バス停間において、自動運転バスの運行実証を実施しました。

佐賀県及び佐賀市では、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成など、社会課題の解決に向けた自動運転の社会実装を目指しています。今回の実証は、2023年度の実証

実験の成果を踏まえ、“実証実験第2弾”として社会実装に向けた運行や検証を実施しました。また自動運転バスが安全かつ円滑に通行できるよう、信号機と連携した自動運転バスの運行を実施しており、信号交差点の右左折において、自動運転バスが信号機から信号情報（信号灯色の残秒数）を取得し、それに応じて進行、停止を判断しています。さらにサンライズストリート（アパホテル佐賀駅前中央付近から機動隊前交差点まで）においてレベル4相当での運行を実施しました。

https://www.ctie.co.jp/news/tech/2024/20241004_1374.html

●生駒市初！グリーンスローモビリティ「はぎくる」が実証運行開始【生駒市】

生駒市は、住宅開発から40年が経過し、高齢化率が50%を超え、オールドニュータウン化が進む萩の台住宅地において、より地域に適した移動手段の検討として、グリーンスローモビリティを用いた地域によるボランティア輸送の実証実験を行っています。実証運行開始に先立ち、運行初日に出発式を行いました。

<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000036310.html>

●2024年度多気町×明和町デマンドタクシー交通広域連携プロジェクトが始まります！【多気町、明和町】

行政・公共交通事業者・商業施設等の連携・協働により、両町の医療・商業集積地域や交通結節点といった広域生活圏内での移動を双方のデマンド交通の連携により可能とすべく、実証事業として、多気町と明和町が同一のAIデマンド交通システムを導入することで、広域連携の交通サービスを提供します。

本事業では、公共交通での移動に頼らざるを得ない65歳以上の高齢者・障害者を利用対象とし、両町民の日常生活における行政間の移動を確保しつつ、医療・商業施設等との連携やデジタル地域通貨「美村PAY」の活用により、両町民の外出機会の促進につなげ、地域の活性化を促します。

<https://www.town.taki.mie.jp/life/soshiki/kikakuchosei/1/4229.html>

●奥畑線乗合タクシーのデマンド交通の実証実験を開始しました【周防大島町】

周防大島町は、交通不便地域解消の補完および高齢者等の免許返納や外出促進に寄与する公共交通手段としての有用性を検証するため、デマンド交通実証実験運行を2024年10月から開始しました。小松・屋代地区に設けた乗降場所間の移動を提供します。

<https://www.town.suo-oshima.lg.jp/soshiki/7/10245.html>

●都市部におけるオンデマンドモビリティ「みなりの」の実証運行を開始 ～東京都港区高輪地区における交通不便地域の解消と域内移動サービスの拡充～【JR東日本、KDDI、国際ハイヤー】

東日本旅客鉄道株式会社とKDDI株式会社、国際ハイヤー株式会社は、2024年11月1日から2025年9月30日まで、東京都港区高輪地区において「オンデマンドモビリティの実証運行」を実施します。オンデマンドモビリティとは、特定のエリアにおいて、利用者が希望する時間に乗りたいスポットから降りたいスポットまでを、経路上でAIが最短ルートを設定し移動する乗合サービスです。

本実証運行により、既存交通網ではカバーしきれていないエリアにおいて、既存交通網との相互補完を目的とした交通手段を提供します。2025年3月にまちびらきを予定しているTAKANAWA GATEWAY CITYと、周辺地域の商店・観光地等における回遊性向上を図ることで、高輪地区の魅力向上を目指します。

https://www.jreast.co.jp/press/2024/20241017_ho01.pdf

●2025年大阪・関西万博で運行する会場内・外周バスの運行ルートと乗車料金が決まりました ～EVバスを用いてレベル4相当の自動運転走行や走行中給電を実施します～
【Osaka Metro、関西電力、ダイヘン、大林組】

大阪市高速電気軌道株式会社は、2025年大阪・関西万博で運行が決定している会場内・外周バスに、EVバスを導入し運行管理システムを用いて運行することで、多くの万博来場者に、よりスマートでクリーンな移動を提供します。

運行にあたっては、関西電力株式会社、株式会社ダイヘン、株式会社大林組と共同で、エネルギーマネジメントシステムを活用し、運行と充電を両立する技術実証を行います。さらに、一部車両で自動運転レベル4相当での運行や走行中給電も実施します。

https://subway.osakametro.co.jp/news/news_release/20240925_expo_bus_route.php

●乗合タクシー『のーと上熊本』実走運行開始【TaKuRoo】

株式会社TaKuRooは、2度の社会実証を実施してきた上熊本・池田地区におけるAIデマンドタクシーの実走運行を開始しました。

上熊本地区は、JR上熊本駅、熊本電鉄上熊本駅、熊本市交通局上熊本駅、バス停、タクシーの結節点になっている一方、居住エリアである池田地区は狭隘道路も多くさらに高低差のある丘陵地形で移動がしづらい不便な地区となっており、高齢化や人口減少が進んでいます。タクルー本社所在拠点である上熊本・池田地区において、地域の足の確保、脱炭素社会の推進、地域のブランディングとして事業に取り組みます。

<https://takuroo.jp/2024/10/07/knowroute240920/>

●「EV トुकトック」が納車されました【神戸親和大学】

神戸親和大学は、神戸市北区役所・北神区役所と共有している地域活性化の可能性を交通難民支援(ライドシェア)、移動手段、物流、介護、防災の観点から、「EV トुकトック」を活用した実証実験をスタートさせます。また、2025年の秋学期から開始する「地域共創科

目(予定)」で学び場の一つとして検討されている「しあわせの村」等への学生の移動手段としても活用を予定しています。実証実験に向け、「EV トゥクトゥク」が納車されました。

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/news/news/ev.html>

●EV サービスの展開を開始します【SmartRyde】

株式会社 SmartRyde は、2019 年より MK グループ各社と連携して、主要空港における空港送迎サービスを提供しています。2024 年 7 月のエムケイ株式会社との契約締結から、EV 車両指定サービスを一部区間で提供しています。

この取組みは、エムケイ社の「2030 年までに全車 ZEV 化」と SmartRyde の「2030 年にプラットフォームにおける取り扱い車両を 100%EV 化」の SDGs 目標によるもので、両社で EV 車両によるサービスの利用促進を積極的に進めていくことで、日本における EV タクシー・ハイヤーの普及を目指します。

<https://www.smartryde.io/ja/news/smartryde-partners-with-mk-group-to-launch-ev-service>

●商用車ユーザーの脱炭素化を支援する「EV ライフサイクルサービス」を 10 月 1 日から開始しました【ヤマトオートワークス、芙蓉総合リース】

ヤマトオートワークス株式会社は、車両を使用する事業者の脱炭素化に向け、温室効果ガス削減計画の立案から EV・充電器の導入・運用支援、メンテナンス、エネルギーマネジメント、再生可能エネルギー供給までワンストップで提供する「EV ライフサイクルサービス」を、2024 年 10 月 1 日から開始しました。芙蓉総合リース株式会社と連携のもと提供しています。

https://www.yamato-hd.co.jp/news/2024/newsrelease_20241001_1.html

●InnoTrans 2024 で環境に優しいインテリジェント旅客輸送ソリューションを発表【CRRC】

CRRC Corporation Limited は、ドイツ・ベルリンで開催された InnoTrans 2024 で、あらゆる速度層とアプリケーションシナリオをカバーする高度な旅客輸送ソリューションの包括的なラインアップを発表しました。「低炭素の未来へ」というテーマのもと、水素燃料電池を使用した環境にやさしい鉄道輸送ソリューションや、多様なニーズに対応するグリーンな都市型モビリティを開発しています。

https://www.crrcgc.cc/en/2024-10/08/article_2024100809135483695.html

3. イベント情報

●本物の列車や運転シミュレーターで列車運転を体験しよう！

日時:2024 年 10 月 26 日(土) ①9:00～12:00 ②13:00～16:00

場所:神田車両基地(鹿児島市上荒田町)

対象:小学 3 年生～6 年生(保護者同伴)

主催:「鉄道の日」九州実行委員会、国土交通省九州運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000330180.pdf>

●駅祭テイング 2024 in 天王寺公園

日時:2024 年 10 月 27 日(日) 10:30～16:00

場所:天王寺公園エントランスエリア「てんしば」

主催:「鉄道の日」近畿地区実行委員会

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000333442.pdf>

●第 28 回地域バス交通活性化セミナー「コロナ後の大都市域における路線バス網リデザインの必要性和方策」

日時:2024 年 10 月 28 日(月) 13:00～16:10(12:30 受付開始)

場所:ハイブリッド開催(文京シビックセンター スカイホール、オンライン配信)

主催:(一社)東京バス協会、(公財)交通エコロジー・モビリティ財団

https://www.ecomo.or.jp/environment/bus/28th_seminar.html

●第 11 回させば公共交通ふれあいフェスタ

日時:2024 年 11 月 2 日(土) 11:00～16:00

場所:佐世保駅前ひろば

主催:松浦鉄道(株)、九州旅客鉄道(株)、西肥自動車(株)、させばバス(株)

https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/00001_00504.html

●マチミチ study 現地勉強会 in 春日部

日時:2024 年 11 月 11 日(月) 13:00～17:00

場所:春日部市役所ひだまりホール

対象:地方公共団体職員、民間事業者、学術研究機関等

主催:国土交通省

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000110.html

●兵庫カーライフフェスタ 2024

日時:2024 年 11 月 16 日(土)、17 日(日) 10:00～16:00

場所:神戸メリケンパーク

主催:日本自動車販売協会連合会兵庫県支部、日本自動車連盟兵庫支部

https://www.tb.mlit.go.jp/kobe/00001_01622.html

●本物の列車や運転シミュレーターで列車運転を体験しよう！

日時:2024 年 11 月 16 日(土) 10:00～12:00

場所:博多駅構内

対象:小学 1 年生～6 年生(保護者同伴)

主催:「鉄道の日」九州実行委員会、国土交通省九州運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000330180.pdf>

●地域公共交通シンポジウム in 中部「～地域公共交通の未来をどう創るか～ 課題解決のためのデジタル技術の活用」

日時:2024 年 11 月 21 日(木) 14:30～17:00

場所:ハイブリッド開催(今池ガスホール、オンライン配信)

主催:国土交通省中部運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/symposium/pdf/R6/programR6.pdf>

●2024 年度エコドライブシンポジウム

日時:2024 年 11 月 22 日(金) 13:30～16:00

場所:千代田区立内幸町ホール

主催:エコドライブ普及推進協議会、公益財団交通エコロジー・モビリティ財団

https://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive_sympo24.pdf

●グリーン経営認証取得講習会

日時:2024 年 11 月 25 日(月) 13:30～16:30(トラック・バス・タクシー)

日時:2024 年 11 月 26 日(火) 9:30～12:00(海事等)

場所:AP 大阪淀屋橋 3 階 H+I ルーム

主催:国土交通省神戸運輸監理部

<https://www.tb.mlit.go.jp/kobe/content/000333078.pdf>

●第 49 回 EST 創発セミナーin 陸前高田〔東北〕

日時:2024 年 11 月 29 日(金) 13:30～17:00

場所:ハイブリッド開催(奇跡の一本松ホール「ルーム 1」、オンライン配信)

主催:国土交通省東北運輸局、陸前高田市、EST 普及推進委員会、(公財)交通エコロジー・モビリティ財団

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu79.html>

●地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト

日時:2024 年 11 月 8 日、22 日、12 月 6 日、20 日、1 月 10 日、20 日

いずれも金曜日の 18:00～21:10

場所:ハイブリッド開催((名古屋大学)+オンライン配信)

主催:地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト事務局

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kyoso.htm>

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<https://mm-education.jp/mailmagazine.html>

- グリーンスローモビリティに関する情報を掲載しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<https://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<https://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組や話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp(担当:岡本)

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<https://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <https://www.estfukyu.jp/>